

コネクション・ガーデン計画

はじめに

以前の日本では、人々は地域の人同士で協力し、助け合いながら暮らしていました。そこには地域間の強いつながりが存在していました。

しかし、経済・社会環境や人々の意識の変化に伴い、かつての全面的なつながりに大きな変化が生じ、地域のつながりが希薄化していきました。現代では、核家族化進行による高齢者の孤独死、地域のつながりを持たない傾向にある賃貸共同住宅の住民の増加と地域の目による防犯意識の低下、などといった問題が深刻化しています。それらの問題は、地域のつながりがとても希薄になっていることと深く関係があります。

また、人とのつながりをもつことは精神的なやすらぎをもたらし、生活満足度を高めるといった効果があります。

そこで、地域のつながりをつくり、問題を解決する方法として地域による草木あふれる公園計画、「コネクション・ガーデン計画」を提案します。

計画内容

地域の中心に大きな公園をつくり、その土地（通路などの残すべきところを除いた分）を地域の住民や団体、役所、学校などで分割して受け持ち、持ち主の自由に花や草木を植える。個人で植えたり、数人集まって話し合っで植えたりと自由に行い、植える種類はなるべく管理の難しくないものを選ぶ。普段の世話は管理人たちに任せ、時間があるとき、立ち寄ったときに楽しんだり、管理人たちと新しく植えるものを考えたりする。時間的余裕のある人は管理人たちの手伝いや管理人になったりする。役所や学校の分の区画には野菜などを植えて、子供たちに世話をさせたり、地域のイベントとして収穫したりする。地域の住民たちでつくるその公園は、とても過ごしやすい、地域の目玉になると思います。

ねらい

住民全体でひとつの計画を行うことで連帯感や共通の話題等をつくり、地域のつながりを強める。植物という変化のあり、定期的な手入れを必要とするものを用いることで公園の完成後も公園との関わりを維持させる。植物とふれあうことによるリラクゼーション効果を期待し、また子供の情操教育に役立てる。子供たちの遊び場になる。

課題と解決策

・公園の管理にどのように住民を参加させるか

公園の管理業務には、清掃、草木の世話、害虫の駆除、イベントの企画など大小様々な種類があります。それらを地域住民からなる運営団体で行いつつ、積極的な参加を呼び掛ける。この計画は、計画を続けること、その成果が目に見えるかたちで存在し続けることでつながりをつくるのが目的です、なので、最初は消極的な参加であっても、後に積極的に参加するようになれば目的は達成となります。